

特別講義

明治大学 国際交流基金事業 「Researcher Mobility Grant」

自己を織る——装い・表現・日本の ヴィジュアル・カルチャー

2026年7月16日 木 5限
17:10~18:50

明治大学 和泉キャンパス 図書館ホール

講演詳細（使用言語は日本語です）

本講演では、コミュニケーションであると同時に自己表現でもあるファッションを考察します。装い・アイデンティティ・身体をめぐる理論を手がかりに、衣服が「同調」と「個性」という相反する欲求をいかに調停するのかを論じます。装いは社会の規範や期待をどこまで「逸脱」しうるのか、それともむしろそれらを再確認するものなのか。そのうえで、ストリートファッションやアイドル文化など、日本のヴィジュアル・カルチャーの事例を通して、こうした実践が着る者のアイデンティティ・真正性・行為主体性（エージェンシー）について何を語るのかを問います。装う者とは、与えられた文化をただ受け取る消費者なのか、それとも自らが生きる文化の意味を能動的に作り変える生産者なのか。本講演は、これらの問いを通して、装いと視覚文化をめぐる議論を展開します。

講師紹介 門傳昌章 シドニー大学言語文化学部講師

シドニー工科大学で博士号を取得し、現在はシドニー大学言語文化学部で教鞭を執る、近代日本を専門とする文化研究者である。ファッション、ジェンダー、視覚文化といった、一見「表層的」と見なされがちな事象に目を向け、その奥にある文化的な意味を丁寧に読み解いてきた。これまでに30篇を超える論考を発表しており、なかでも著書『Japanese Fashion Cultures』は、刊行から十年以上を経た現在も第一線の研究者に参照され続けている。近年は研究の関心を広げ、日本の視覚文化におけるジェンダーと身体性、ポピュラー・メディアが描く少女性・少年性の想像力、そして現代日本における世代的アイデンティティについて考察を進めている。



主催：明治大学情報コミュニケーション学部 高馬京子教授

共催：明治大学 国際連携本部

本講義は科研費基盤研究C「日仏メディアにおいてファッションを通して構築される非/規範的ジェンダー表象」（24K15565）の助成を受けたものです。